

三軒家公園

大阪市大正区は、周囲を川に囲まれた区です。海運を利用した産業が多く、鉄工所や物流センターなどが数多く存在。ナットや溶接、塗装などが社名に入った専門メーカーが健在です。船の圧力計やフランジなど、普段目にすることが少ない製品を作る企業も数多くあります。また、沖縄出身者が多いので、沖縄料理店や物産店もたくさんあり、町歩きが楽しい地区です。

JR 大正駅近辺に、野球場がある小さな公園があります。三軒家公園です（江戸時代の初期には、三軒しか家がなかったのが地名のいわれ）。

この公園の隅に「近代紡績工業発祥の地」という石碑があります。説明もついていますが、訪ねる人は珍しいでしょう。藤田伝三郎も大阪紡績（東洋紡の前身）も、知っている人は少なくなっているようで、ちょっと残念です。

大阪紡績は、1882（明治15）年に設立されました。渋沢栄一と藤田伝三郎が協力しています。東西の大物経済人が協力して、旧公家や旧藩主から資本を集めた会社です。実際に経営を担ったのは、イギリスで技術を学んだ山辺丈夫（やまのべたけお）。経済学などを学ぶために留学中、渋沢の指示で方向転換し、機械工学を学びマンチェスターの工場実習を体験して、技術を身につけた人物です。

帰国して支配人となり、蒸気で動かす近代



▲大阪紡績発祥の地（大正区の三軒家公園）

紡績業の最初のレンガ造りの工場を作り上げます。大阪紡績がきっかけとなって、三重紡績、尼崎紡績、摂津紡績、天満紡績などが生まれ、大阪は「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになります。

明治初期は経済人が台頭した時期。

民間経済が発展してこそ、国が発展する。商人が尊敬される社会を作る。こう考え官を辞し、日本の資本主義の仕組みを整えた渋沢栄一（協調会を設立し、労使協調の人事管理を広める動きの中心人物をになった人物でもあります）。

宇治川電気（関西電力の前身）、児島湾（岡山市）開拓、阪堺鉄道（南海電鉄の前身）など、あまたの事業を創設した藤田伝三郎（藤田美術館が、収集品を展示しています。廃仏毀釈に対する危機感から仏教美術を保存しようとしたそうです）。

津和野藩士から工場支配人に転身した山辺丈夫。自分の修得した技術力を信じて、競争力ある工場を作り出します。御雇外国人の力を借りていません。だれもが、時代と格闘しています。魅力的です。

（MBO 実践支援センター代表 大阪商業大学特任教授）

